

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K18359

研究課題名（和文）ジャンル・テキストの中の文法：テキストとその要素としての構文の相互作用

研究課題名（英文）Grammar in the text genre: Interaction between the text and the construction as its element

研究代表者

志波 彩子 (Shiba, Ayako)

名古屋大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：80570423

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトは、未だ十分な議論が立ち上がっていない「テキスト・ジャンル」と「文法」との関係性を「構文」という単位を切り口にして研究を進めてきた。現代日本語学、日本語の歴史的研究、日本語教育、中国語学、中国語教育といった様々な立場から、テキストと文法との関係を考察してきた。中国語の古典には、非常にパターン化した、テキスト構成の定型がいくつも存在するが、現代日本語のテキスト（文章）では、そうしたパターン化した構成は意識されにくい。しかし実際には、ある種の構文の連鎖がパターン化して、テキスト全体の意味（場面描写、状況説明、心理描写、背景説明など）に貢献していることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの文法記述は、テキストやジャンルから離れて行われてきた。しかし、文法形式の1つ1つの用法はテキストやそのジャンルにかなり依存している可能性があることを、本研究は示した。文法（構文）はテキストやジャンルの意味・機能に影響を与え、同時にテキスト・ジャンルの性質が文法（構文）に影響を与えるというダイナミックな相互関係がある。これは、言語の歴史的な発展が、テキストやジャンルと切り離して説明できないことも意味している。

研究成果の概要（英文）：This project has been advancing research by using the unit of "construction" to explore the relationship between "text genre" and "grammar," which has not yet been sufficiently discussed. From various perspectives such as Japanese linguistics, historical research on Japanese, teaching Japanese as a second language, Chinese linguistics, and Chinese education, we have been considering the relationship between text and grammar. In classical Chinese texts, there are many standardized patterns of text construction, but in Japanese texts, such standardized constructions are less consciously acknowledged. However, in reality, it has become evident that certain constructional chains are patterned and contribute to the overall meaning of the text (such as scene depiction, situational explanation, psychological description, background explanation, etc.).

研究分野：日本語学

キーワード：構文 テキスト ジャンル スタイル 構造と要素 文法と文体

1. 研究開始当初の背景

従来のテキスト言語学における「文法」研究は、指示(人称詞, 指示詞), 代用, 省略, 接続といった、前後文との関係を明示する文内要素の研究に注意が向けられ(Halliday and Hasan 1976 *Cohesion in English*, 甲田 2001 『談話・テキスト展開のメカニズム』等), 要素である語や文のタイプそのものとテキストの構造との関係を議論した研究はほとんどない。また, ジャンルによる語彙の現れ方を統計的に扱う研究が近年増えてきたが(Biber & Conrad 2009 *Register, Genre and Style*, 河瀬・小木曾 2014 「雑誌『太陽』における言論の中心的概念とその関係性 - 近代書き言葉の計量分析 - 」等), 語や文をテキスト構造の「要素」として捉え, 他の要素との関わりや全体の構造との関係を扱った研究もほとんどない。このような中で, 本研究は, 構文をテキストの要素と考え, 構文が全体としてのテキストを構成し, テキストの質(意味)に貢献しているという仮説を立て, 全体としてのテキストとその部分としての構文の相互作用を考察すべくスタートした。

2. 研究の目的

ジャンルにはそのジャンル特有のいくつかのテキスト構造があると考えられる。例えば, 小説の地の文なら地の文として機能するために場面描写, 心理描写, 場面展開などといったテキストで構成され, 新聞等の報道文なら事実報告, 背景説明, 方向性の提示などである。そして, こうしたジャンル特有のテキストは, これを構成する要素である構文が, 他の構文と関わり合い, 結びつくことで構成され, さらにそこに選ばれる構文タイプが全体としての当該ジャンルのジャンルらしさ(質)を規定していると考えられる。

同時に構文はそのジャンルにふさわしい構成員たるべく, 特定のテキスト構造の中で新たな意味・機能を獲得することがある。このように, ジャンルが持つテキスト構造と構文との間には, ダイナミックな相互作用(interaction)があると考えられるが, これは具体的にはどのようなものであるのか。こうした観点から文法とテキストやジャンルとの関係を扱った研究は国内外でほとんど例を見ない。

さらに, 本研究は, 近年の「構文」研究の高まり(Goldberg 1995 *Constructions: a Construction Grammar Approach to Argument Structure* 等)を受け, この構文文法の議論をさらに発展させて, 「構造(構文)と要素」という観点をテキスト, 文, 単語といった, 文法現象に関わるあらゆるレベルに当てはめることで, 「ジャンル(文体)」の中での構造と要素の相互関係を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本プロジェクトは, 日本語学, 日本語教育学, 日本語史研究, 中国語学, 古典中国語学, 言語学と言った観点から, テキストと構文がどのように関係しあっているのかを主にコーパスを用いることで記述していった。古典中国語には, かなりパターン化したテキストの固定的な構成がある。構文はこうしたパターン化したテキストにふさわしいものが選ばれている。こうした古典中国語のテキスト構成を参考にしつつ, 現代日本語や各時代の日本語のテキスト, 現代中国語のテキスト等を分析した。現代日本語には, 古典中国語のような固定的なパターンは意識されにくい, 実際は1つ1つのテキストはかなりパターン化した構成を持っているのではないかという仮説から, ある1つの構文について, それが各ジャンルでどのように現れるか, また前後文にどのような構文との連結関係があるかを考察した。

4. 研究成果

各分野から様々な研究成果が出たが, 現代日本語について言えば, 現代日本語の小説ジャンル(フィクション)にしばしば用いられる場面描写のテキストには, 視点のある登場人物の視点の移動を表す知覚構文や移動構文に「NにNがVしてある/している/られている/られてある」といった存在状態構文がつづくというパターンが見られることを明らかにした。さらに, 新聞のスポーツ報道記事ジャンルでは, 「《イベント》は, 《時》《場所》で行われ, 《結果を表す自動詞構文》」という連文パターンがテキストを構成していることを明らかにした。このほか, 日本語学習者や中国語学習者のテキスト構成の特徴や, 歴史的な資料の違いによる用法(構文)の違いなどを明らかにし, 構文がジャンルにおけるテキストを構成し, その中で発達していることを示した。

本プロジェクトの成果は, 代表者の志波が日本語文法学会学会誌『日本語文法』に論考を発表するなど, 国内の文法とテキストの関係をめぐる研究に新たな視点を投じた。テキストと文法の関係はまだまだ未開拓の分野であるが, 今年に入り, 和泉書院から『談話・文章・テキストのまとまり性』(齋藤倫明ほか編)が出版され, 来年にも近藤康弘・澤田淳が編集するテキストと

文法をめぐる論文集が出版される（志波も執筆予定）など、多くの研究者が関心を寄せ、発展していく可能性がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 志波彩子	4. 巻 6
2. 論文標題 知覚動詞「見える」の推定構文への拡がり	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 名古屋大学人文学研究論集	6. 最初と最後の頁 57-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 志波彩子	4. 巻 6
2. 論文標題 自然発生（自動詞）から自発へ：古代日本語と現代スペイン語の対照	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語文法史研究	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大島デイヴィッド義和	4. 巻 24
2. 論文標題 「謙譲語II」と「丁寧語」の区分について 語彙的意味と有標性の観点から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 語用論研究	6. 最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 勝川裕子	4. 巻 2
2. 論文標題 対日本中国語学習者進行聴力培養的試行方案 - TPR実験及其効果 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第二屆名古屋大学・屏東大学文学交流及論文発表会論文集	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢島正浩	4. 巻 80
2. 論文標題 『上方はなし』に描かれる文法 原因理由辞を指標として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語国文学報	6. 最初と最後の頁 25-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 志波彩子	4. 巻 23 - 2
2. 論文標題 ジャンル・テキストとその要素としての構文 受身構文を例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本語文法	6. 最初と最後の頁 70-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地朝子	4. 巻 0
2. 論文標題 「ならで」「ならでは」の一語化と機能変化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ナロック ハイコ・青木博史編『日本語と近隣言語における文法化』	6. 最初と最後の頁 109-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井本亮・幕田順子	4. 巻 92-1・2
2. 論文標題 行政機関の情報発信における「わかりやすい日本語」への転換：福島県「防災ツイート」改訂の取り組み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 商学論集	6. 最初と最後の頁 37-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田村加代子	4. 巻 10
2. 論文標題 「段玉裁《説文解字注》－四字轉注與三字轉注－」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北斗語言学刊	6. 最初と最後の頁 210-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢島正浩	4. 巻 62
2. 論文標題 原因理由史の再理解	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国文学研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢島正浩	4. 巻 92-8
2. 論文標題 逆接確定条件史の再編 事態描写優位から表現者把握優位へ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢島正浩	4. 巻 3
2. 論文標題 近世前期恒常条件の再理解	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 論究日本近代語	6. 最初と最後の頁 65-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 勝川裕子	4. 巻 37
2. 論文標題 日中両言語における物語構築の特徴 - 注視点と構文選択の観点から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ことばの科学	6. 最初と最後の頁 39-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/stul.37.39	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件(うち招待講演 1件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 志波彩子
2. 発表標題 古代語の自然発生的自動詞とラレ構文の連続性について
3. 学会等名 日本語学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Oshima, David Y
2. 発表標題 The Japanese verb itasu 'do' and its kin: Dishonorifics (kenjogo II) vs. courtesy honorifics (teichogo)
3. 学会等名 The 30th Japanese/Korean Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 勝川裕子
2. 発表標題 対日本中文学習者進行聴力培養的試行方案 - TPR実験及其効果 -
3. 学会等名 第二屆名古屋大学・屏東大学文学交流及論文発表会(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 勝川裕子
2. 発表標題 中国語における名詞句構造の文法的特徴 - 語順と意味機能を中心に
3. 学会等名 東アジア日本学研究国際シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shiba, Ayako
2. 発表標題 Meaning and function of the -(r)are- construction in Classical Japanese: Influence of text style
3. 学会等名 EAJS2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 勝川裕子
2. 発表標題 日中両言語における物語の紡ぎ方 注視点と構文選択の特徴
3. 学会等名 杭州師範大学外国語学院海外名家講堂 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田村加代子
2. 発表標題 否定詞的修辭作用 以《論衡・逢遇篇》爲例
3. 学会等名 第三屆名古屋大學-屏東大學 文学交流論文發表會 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井本亮
2. 発表標題 存在様態を表す情態修飾関係について
3. 学会等名 現代日本語文法研究会第20回大会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 庵功雄, 志波彩子, 村上佳恵, 大関浩美, 定延利之, 前田直子, 菊池康人, 増田真理子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 日本語受動文の新しい捉え方	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	矢島 正浩 (Yajima Masahiro) (00230201)	愛知教育大学・教育学部・教授 (13902)	
研究分担者	宮地 朝子 (Miyachi Asako) (10335086)	名古屋大学・人文学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	井本 亮 (Imoto Ryo) (20361280)	福島大学・経済経営学類・教授 (11601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前田 直子 (Maeda Naoko) (30251490)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	
研究分担者	勝川 裕子 (Katsukawa Yuko) (40377768)	名古屋大学・人文学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	大島 義和 (Oshima Yoshikazu) (40466644)	名古屋大学・人文学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	永澤 済 (Nagasawa Itsuki) (50613882)	上智大学・言語教育研究センター・准教授 (32621)	
研究分担者	田村 加代子 (Tamura Kayoko) (80233120)	名古屋大学・人文学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	齋藤 文俊 (Saito Fumitoshi) (90205675)	名古屋大学・人文学研究科・教授 (13901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------